

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウマヅラハギ

学名 *Thamnaconus modestus*

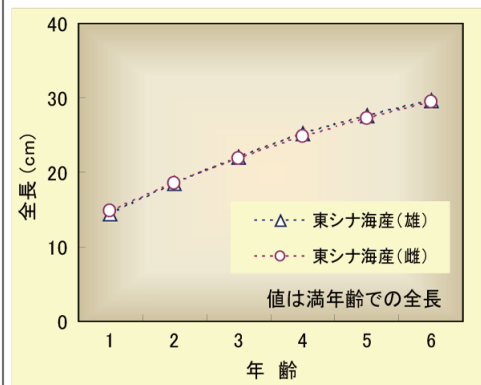
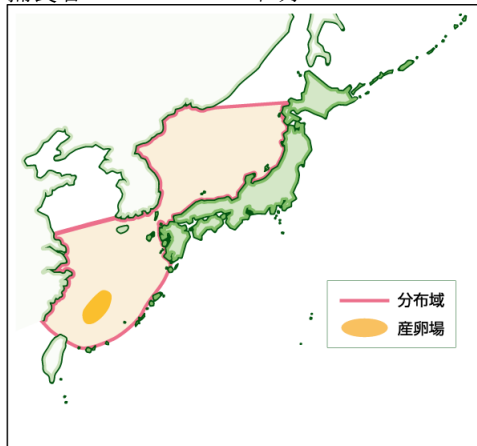
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳程度
成熟開始年齢: 不明
産卵期・産卵場: 4～6月、魚釣島周辺海域、日本・中国・韓国の沿岸
索餌期・索餌場: 8月～翌3月、東シナ海・日本海の沖合域、日本・中国・韓国の沿岸
食性: カイアシ類、ヒドロ虫類、端脚類、オキアミ類、珪藻類、紅藻類
捕食者: 不明

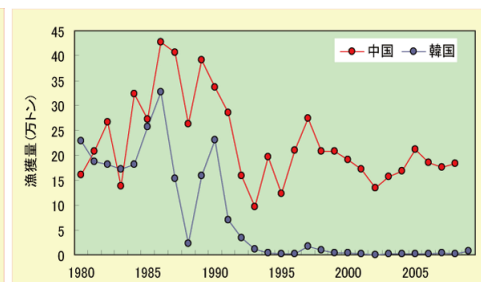
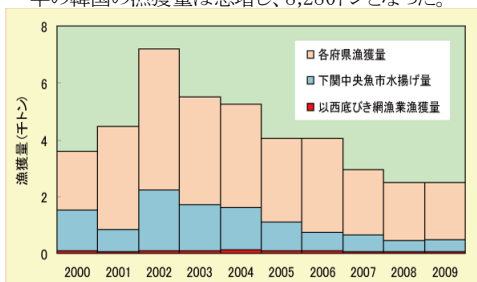


漁業の特徴

主に我が国の沿岸域で定置網、底びき網、刺網等によって漁獲される。

漁獲の動向

我が国では1960年代後半から各地に多量に出現するようになったとされる。近年の漁獲量はやや減少傾向にあり2009年の我が国沿岸域(九州西岸～日本海北部沿岸)と東シナ海での漁獲量は25百トン程度と推定される。東シナ海において最盛期(1986年)にはカワハギ類として中国が40万トン(FAO)、韓国が30万トン以上(韓国農林水産食品部)の漁獲があった。その後漁獲量は減少して中国は20万トン前後、韓国は1千～3千トンで横ばいであったが、2009年の韓国の漁獲量は急増し、8,280トンとなった。



資源評価法

漁獲量の情報を収集し、経年変動傾向を検討した。石川県における漁獲量および無作為サンプリングにおける体長組成を参考にした。また東シナ海の沖合において着底トロールによる漁獲試験を行い、現存量を推定した(夏期、1998～2010年)。

資源状態

我が国の資源水準は不明だが中国、韓国のカワハギ類の漁獲量(ウマヅラハギが大半を占めると考えられる)をみると、1990年代以降は低水準と考えられる。したがって、資源水準は低位と判断した。動向に関しては我が国の水揚げ量、石川県の水揚げ量、着底トロール調査の現存量推定値とも2009年には増加に転じた。また、中国、韓国の最新年の漁獲量も増加している。しかし、過去5年の漁獲量推移でみると、動向は減少と判断される。



管理方策

資源水準が低位であり、動向が減少であることから、漁獲量を削減することが望ましい。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	21百トン	0.8Cave3-yr	—	—
ABClimit	17百トン	0.8・0.8Cave3-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 中国、韓国の漁獲量の推移から、水準は低位
- 韓国、中国、我が国の漁獲量の推移および着底トロール調査の現存量推定値から、動向は減少傾向

管理方策のまとめ

- 資源全体としては漁獲量を削減することが望ましい

